

構築会兵庫支部 平成11年度総会・講演会の概要

平成11年度の総会・講演会は、構築会の真塚達夫会長、建築工学専攻長の吉田勝行教授をご来賓にお迎えして、会員43名の出席のもと11月に開催しました。講演会は、講師として兵庫県まちづくり部営繕課の山本隆史氏(A69)より「トルコ大地震被災地での支援活動に参加して」を題目に講演をいただきました。

トルコ北西部で、1999年8月17日午前3時(現地時間)に発生したマグニチュード(Mw)7.4の地震は、震央付近(イズミット)を中心に死者約15,000人、負傷者約24,000人という大きな被害をもたらしました。このように被害が甚大となった要因は、都市部の浅い所(震源深さ17km)で発生したこと、地震動によりパンケーキクラッシュと呼ばれる建物が上から下まで崩れ落ちる崩壊が多くみられたこと、発生時刻との関係からこの崩壊がほとんど就寝中の住民を襲ったことなどが挙げられています。この地域は、北へ移動するアラビアプレート・アフリカプレートとユーラシアプレートとの衝突地域に当たっており、トルコとその周辺では、死者が1,000人を超える被害の地震が今世紀中に17回も発生しています。世界的にみても死者が5,000人以上となった地震の発生は、阪神・淡路大震災以来です。

このトルコ地震への支援策の一つとして、阪神・淡路大震災で使用されその役割を終えた約1,000戸の仮設住宅が兵庫県からトルコ共和国へ提供されています。山本氏はこの仮設住宅の建設を現地の技術者に指導するため、約30名の国際緊急援助隊専門家チームの団長として派遣されました。海上輸送の後、陸送から現地搬入に始まり、震災で最も被害の大きかったアダパザル市での建設現場の住宅配置計画や工事に伴う調査、建築の仕方に至るまでの様々な貴重な体験を、スライドを交えながら語っていただきました。このアダパザル市は、内陸部であるにもかかわらず、河川からの堆積土砂により市街地が形成されたため、強い地震動による液状化の被害が激しい地域だったそうです。

講演会後の懇親会では、阪神・淡路大震災での体験も交えながら、様々な地震被害やその復旧についての情報交換を行いながら、有意義なひとときを過ごしました。